


環境省・オフセット・クレジット(J-VER)制度認証委員会  
 (事務局:気候変動対策認証センター)御中

平成 24年 2月 27日

## 妥当性確認結果の概要報告書

妥当性確認の審査結果ならびにパブリックコメントの概要について以下の通り報告いたします。

<b>対象プロジェクト名</b>			
大分県厚生農業協同組合連合会鶴見病院における空調更新による省エネルギー・CO2 削減促進事業			
<b>GHG 妥当性確認機関</b>			
当該プロジェクトにおける妥当性確認を行うにあたり、当該プロジェクトに関して一切の利害関係がないことを宣誓します。			
機関名	ロイド レジスター クオリティ アシュアランス リミテッド		
担当部署名	テクニカルグループ GHG チーム		
責任者名	飯尾隆弘		
責任者 E-mail	Takahiro.iio@lrqa.com		
責任者電話番号	045-682-5290		
審査員名 <sup>i</sup>	主任審査員: 川元 蔣(検証の全ての部分を担当する) 技術専門家: Huang Kuo-pao, Taipei office(EMSの観点から助言する) テクニカルレビューワー: 飯尾隆弘(検証の最終レビュー及び当該検証業務の責任者)		
機関要件への合致	受注段階でオフセット・クレジット(J-VER)制度における温室効果ガス(GHG)妥当性確認及び検証機関の暫定的な登録要件について(Ver.3.0)を満たしていることを確認し、同要件(Ver.4.0)を満たしている事を確認している。又、ISO14065妥当性確認部門認定申請済みとなっている。本プロジェクトはJABによる審査対象案件となっている。		
妥当性確認報告書発行日	平成24年2月27日		
<b>審査内容</b>			
適用妥当性確認・検証ガイドライン	オフセット・クレジット(J-VER)制度 妥当性確認・検証ガイドライン Ver. 2.1		
妥当性確認期間	平成 24 年 1 月 25 日～ 平成 24 年 2 月 23 日		
現地審査	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	期間	平成 24 年 2 月 06 日 (JAB 同時立会)

	<p>審査内容</p>	<p>現地審査は、戦略的分析及びリスク分析を行ない、事業者、プロジェクト、バウンダリ、ベースラインシナリオ等を把握(ステージ1審査)した上で妥当性確認計画を立案し、その計画に基づき、ステージ2審査として下記項目等を目的として行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者のインタビュー</li> <li>2. 周辺環境の把握及び環境影響評価状況</li> <li>3. プロジェクトバウンダリ及びベースラインシナリオ</li> <li>4. 更新された空調設備機器及び配管の設置状況</li> <li>5. プロジェクト管理体制の把握</li> </ol> <p>この現地審査により判明した事は、次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 空調設備はプロジェクト計画通り更新されている。</li> <li>2. ベースラインシナリオとして既存空調設備が、適切なメンテナンスを受けながら継続使用される事が最も起こり得るシナリオである。</li> <li>3. 更新された空調設備の中、院内配管は既設のものを使用し、空調設備本体の機器のみ更新されている。</li> <li>4. 当該プロジェクトによって有意の環境影響は検出されなかった。</li> </ol> <p>両計画書の中、不明な点や記載ミス等は適宜変更して頂いた。</p>
<p>プロジェクト情報 (A・B)</p>	<p>記載内容に関して提供頂いた証跡により全て妥当である事を確認した。</p>	
<p>適格性要件(C)</p>	<p>ポジティブリスト/方法論 No. E012「空調設備の更新」記載の適格性基準を全て満たしている事を提供頂いた証跡により確認した。投資回収年数は最も短くなる場合を想定しても4.7年以上となっており、要件の3年以上である事を確認している。</p>	
<p>排出量・吸収量算定 (I・II)</p>	<p>適用方法論に基づきモニタリング計画書と採用されたデータの根拠資料を提出頂き審査した。方法論の中のベースライン排出量の算定に於いては、ベースラインの化石燃料からプロジェクトで電力へと燃料転換された場合の式を用いて算定している。プロジェクト排出量の算定に関しては、空調設備で1年間に消費された電力使用量を校正された電力量計で計測して求められる事になっている。ベースラインの化石燃料は、この更新後の電力使用量から、更新前後の消費エネルギー効率(COP、カタログ値)を使用して求められる。</p>	
<p>モニタリング計画 (III～VI)</p>	<p>本プロジェクトでは、活動量としてのモニタリング対象で重要なものは、電力使用量である。このパラメータについては特段の計器の精度管理を要求し、対応頂いた。又、プロジェクト実施前後での容量増加によるCO2排出総量の増加の有無を確認する目的で、hPj,y(プロジェクトでの空調設備稼働時間)が必要となるが、この数値は保守的に既に設定しており、正確性を要し</p>	

	ないパラメータなので、本体に付属のタイマーで計測する事になっている。
その他(D)	特になし。
機関の見解 (サマリー・結論)	当社は大分県厚生農業協同組合連合会鶴見病院殿から依頼された表記のプロジェクトの計画書(最終 Ver.2.0)に対して、オフセット・クレジット(J-V ER)制度実施規則(Ver.2.6)及び関連ガイドライン、適用ポジティブリスト/方法論、ISO14064 Part3等に従い、合理的保証を保証水準として妥当性確認を行なった。その結果として、当該プロジェクト計画は、無限定適正、即ち、全ての重要な点について適正であると認める。
<b>パブリックコメントの概要</b>	
パブリックコメントの募集期間： 平成24年1月27日より平成24年2月09日まで コメント： 特になし。 妥当性確認機関の見解： 該当なし。	

i 審査担当者、レビュー担当者、外部専門家を含み、それぞれの役割を記載すること。